

掛東学園だより

平成 27 年度第 2 号 発行 掛東学園

第 2 号担当 掛川市立西山口小学校

乳幼児センターすこやか

— 園・学校・家庭・地域が思いを一つにして、地域の子どもたちを育てましょう —

(東中・掛一小・上内田小・西山口小・ひだまり幼保・すこやか幼保・智光幼・掛川工業高・掛川特別支援学校・

第一地区・第二地区・南郷地区・上内田地区・西山口地区)



「西山口小のじまんは？」

「さきどりあいさつ～！」

①さきどりあいさつ ②だまってそうじ ③楽しい学校

これが西山口小3つのじまんです。9月の子どもたちへのアンケートでは、出会った人に先に声を掛ける「さきどりあいさつ」が自信をもってできている、と答えている子は54%でした。「えっ！少ないでしょ！じまんじゃなくなっちゃう！」。子どもたちは、気持ちを入れ直しました。それ以降、さきどりあいさつをがんばっている子どもがぐんぐん増えているようです。

写真のように、笑顔がとてもいいことも西山口小児童のじまんです。「いい声が出るねえ！」「いい笑顔だねえ！」。ほめてもらえるとますますがんばる子どもたちです。学園の皆さんの励ましを、今後もよろしくお願いいたします。



「乳幼児センターすこやかでは？」

「たくさん ほめてもらったよ～！」

好天气に恵まれ、10月17日に運動会を開催しました。

何ととっても声援が大きかったのは、あこがれの5歳児の組み体操やクラス対抗リレーでした！我が子の成長に、感動で目を潤ませた保護者の方も多かったようです。

また、それ以上に目を見張ったのは、係を分担して運動会を進行する姿でした。大きな声で堂々とあいさつする姿は、最年長児としての使命感に燃えていました。

「恥ずかしがり屋の我が子が、大きな声で閉会式の言葉を言えたのは、とても素晴らしく、家でもたくさんほめておきました。」(5歳児保護者の感想より)

“わんわんわん運動”を実践できた素晴らしい一日になりました。



西山口地区福祉協議会 子ども福祉委員会活動紹介

報告・編集 地域コーディネーター 菅沼孝行(西山口地区福祉協議会 企画委員長)

西山口地区福祉協議会の子ども福祉委員会は、平成20年に、地域による子どもの活動組織として立ち上げました。今年で8年目となりました。

この活動は、子どもが地域福祉活動に主体的に参画することにより、子どもたち自身のボランティア(奉仕)の心と福祉の心を育てるという目的で立ち上げました。

感想にも書かれているように、常時活動として、グループホームの定期訪問交流6回、夏休みにはすこやか保育園の訪問交流2回、そして福祉バザーの売り子役、地区敬老会の案内役など子どもスタッフとして、大人の役員・ボランティアの人たちと共に地域の福祉活動に参画、体験活動を続けています。

27年度は、3年生以上の希望参加の子どもたち26名とボランティアスタッフ13人で活動しています。

今回、子ども福祉委員の6年生のみなさんにその体験から感想を寄せてもらいました。とてもよい感想ばかりで、スタッフとしても嬉しい限りです。みんな貴重な体験を積んでいます。



グループホーム交流 7月ー七夕飾り作り

私は、今回、自分にできることがたくてこの活動に参加しました。自分にできることがたくさん見つけられました。お年よりと交流することで、ふだんの友達との会話とは違ったものを学びました。

柴田玲那

私が特に心に残っているのは、グループホーム訪問の七夕のときでした。たんざくを飾る時に、グループホーム入所の方に「子どもたちが来てくれているから、もう幸せ」と言われ参加して良かったと思います。

服部碧唯

参加の6年生の感想 「子ども福祉委員会に参加して」



地区敬老会で合唱・演奏披露

私は、子どもからお年よりまでの人たちとのふれあいをたくさんして、みんなと笑うことができ、とても楽しかったです。委員長として、低学年の子にも分からないことを教えてあげることができ、仲が深まりました。 岩瀬 姫

私にとってボランティアは遠い存在でした。でも、福祉委員会に入り、グループホームでのお年よりとのふれあいや、すこやか保育園で小さい子とふれあうことで、ボランティアを身近に感じるようになってきました。ありがとうございました。 塩原桃花

私は、子ども福祉委員会のボランティアをしてみて、たくさんの貴重な経験をさせてもらいました。私は、3年から6年生まで参加し続けていたので、多くの気づきや学びがありました。他の学年の子とも仲よく参加できました。

菅沼希美

私は、子ども福祉に入って、グループホーム訪問など、人とたくさん関わり、人を大切にすることを改めて思ったので、2年間参加して良かったです。

黒田佳那

私は、子ども福祉委員会に入って、人を助ける楽しさを知りました。おじいさんやおばあさん、保育園児と接して楽しかったです。これからも、この福祉の経験を将来に生かしたいです。

松浦なな子

掛東学園だより

平成27年度12月号
発行 掛東学園
(掛川市立第一小学校)

一園学校・家庭・地域が思いを一つにして、地域の子どもたちを育てましょうー

(東中・掛一小・上内田小・西山口小・ひだまり幼保・すこやか幼保・智光幼・掛川特別支援学校・掛川工業高・第一地区・第二地区・南郷地区・上内田地区・西山口地区・)



掛東学園子ども育成支援協議会推進委員の皆様と
「掛東学園保幼小中一貫教育研究会」を開催しました！



11月18日(水)掛川市立第一小学校を会場に、掛東学園保幼小中一貫教育研究会を開催しました。園・学校関係者、掛東学園子ども育成支援協議会推進委員の皆様にご来校いただき、子どもたちの様子を授業参観をしていただき、全体会では「読む力を育てるために」と題して、掛川市子どもの読書活動を考える会の山崎幸子さんにご講話いただきました。

授業参観された皆様からは、どの学級も学びの雰囲気ができており集中して取り組んでいた点や学年別の成長段階に対応した指導がなされている点、個々の児童に対応している点等を評価いただきました。

全体会では、講師の山崎さんから以下の3点についてお話をいただきました。1つ目に、子どもを取り巻く読書環境の最近の状況、2つ目に、児童生徒の読書傾向、3つ目に、読む力をつけるために。学校や家庭での読書環境を整え、子どもたちの読書能力を伸ばしていきたいと思っております。

共通実践「笑顔であいさつ」 掛一小のあいさつ運動は！？

笑顔マークのついたのぼり旗。各学校・地域で見ることができます。

掛一小の子どもたちは、毎日元気いっぱいのあいさつをしています。校内では、高学年の働きかけから低・中学年の児童が自主的に自分たちのできることをしていきたいと、「西館あいさつ隊」「ハイタッチあいさつ隊」を組織して活動しました。

地域・保護者の皆さんによる登下校見守り隊も進んで子どもたちに声掛けをしていただき子どもたちは、自然とあいさつをする習慣が身につけてきています。

今後も、「笑顔であいさつ」がいっぱいになるように働きかけていきたいと思います。



家族で話そうよ！わんわんわん運動

各家庭、各学校でわんわんわん運動が進められていることと思います。子どもたちが家庭で話したくなる、きっかけとなる行事や活動が各学校にはたくさんあります。今回は、掛一小で学習している地域の皆さんから学んでいる内容を紹介します。

家族で話そう

1日に1度は、今日のできごと。
1週間に1度は、身の回りのこと。
1月に1度は、将来のこと。



3年生 お茶博士になろう

総合的な学習の時間を使い、掛川のお茶について学びました。手摘み体験やお茶工場見学、手もみ茶づくり体験等、多くの方に直接接しながら作り手の気持ちやお茶づくりに関わる人の気持ちも考えました。

6年生 生き方を学ぶ講話

掛川おかみさん会

会長 山本和子さん

掛川市 市議会議員

高木敏男さん

キャリア教育の一貫として、市・地域で活躍されている方々に講話をいただきました。様々な職業や生き方を学びこれからの生き方の参考にしていきます。



2つの地域生涯学習センター主催事業への参加（南郷・掛一小）

南郷文化祭と桔梗が丘ひろばは、地域の皆さんとのふれあいの場となっています。



作品展示



体験コーナー



世界一短いメッセージ作品



掛川工業高校

地域の皆様といっしょに防災訓練 ～ 掛東学園の目指す姿に一步！



12月6日は、各地域で地域防災訓練が行われました。多くの園児・児童・生徒も参加しました。子どもたちの様子は、いかがだったでしょうか。

子どもたちは、地域の皆様と交流する中で、自分も地域の一員であることや地域の方々に見守られていることに気が付きます。視野を大きく広げられたのではないかと思います。

訓練のみに留まらず、掛東学園の目指す姿に一步近づけたと思います。

掛東学園だより

平成27年7月号
掛東学園
(掛川市立上内田小学校)

一園・学校・家庭・地域が思いを一つにして、地域の子どもたちを育てましょうー

(東中・掛一小・上内田小・西山口小・ひだまり幼保・すこやか幼保・智光幼・掛川工業高・
掛川特別支援学校・第一地区・第二地区・南郷地区・上内田地区・西山口地区)

「わん・わん・わん運動」始まる！

－掛東学園子ども育成支援協議会全体会が開催される－

市学園化構想のもと、掛東学園子ども育成支援協議会が発足し3年目を迎えました。本年度は運営委員会、推進委員会を経て、6月13日(土)に掛川市立東中学校で全体会を行いました。週末のお忙しい中、地域住民、保護者、推進委員の方々総勢140人の参加をいただき開催することができました。

全体会では、中村進一会長、教育委員会のご挨拶のあと、4人の地域コーディネーター(下記参照)の紹介、本年度の取組説明がありました。さらに新入会としまして県立掛川特別支援学校の紹介を深沢校長よりしていただきました。続いて、「掛川お茶の間宣言」に携わられた菅沼コーディネーターからのお話は分散会につながるお話でした。

さて、本年度掛東学園全体で共通して取り組むことは大きく2つあります。

ひとつは「笑顔であいさつ」を合い言葉に「あいさつ運動」を継続することです。各園・校・地区において工夫した実践を進められることを期待しています。配布ののぼり旗(本年度は緑系色)も活用して取り組みます。

二つ目は「わん・わん・わん運動」です。本年度からの取組で家族での会話を増やすのが目的です。より一層「掛川お茶の間宣言」を推進するための活動です(右チラシ配布、ポスター掲示)。「わんわんわん」を合い言葉に家族の会話がひろがることを期待しています。

わん……1日に1度は、今日のできごと
わん……1週間に1度は、身の回りのこと
わん……1(ひと)月に1度は、将来のこと

家族で
話そうよ

その他にも、掛東学園だよりの発行(本紙)、保幼小中一貫教育研究会、学園に係わる活動(青少年声かけ運動、街頭キャンペーン、全市一斉環境美化活動、地域防災訓練等)に参加します。

また、年間を通して地域コーディネーターによる学校支援活動が行われます。各園・校とコーディネーターが計画を立て、地域と連携した学習や活動が展開されます。



【コーディネーターの紹介】(敬称略)

- ・福田浩文(東中学校、智光幼稚園)
- ・服部 稔(掛一小学校、ひだまり幼保)
- ・青嶋利雄(上内田小学校)
- ・菅沼孝行(西山口小学校、すこやか幼保)

◆平成27, 28年度は、上内田小学校が事務局を担当します。

「掛川お茶の間宣言」を实践するにあたって……＜分散会報告＞

参加者が居住区を中心に10のグループに分かれて分散会を行いました。全体会における菅沼コーディネーターのお話を受けて、「掛川お茶の間宣言」について、現状や課題、今後に向けての話を話し合いました。

※下記は出された意見からの抜粋

☆実践していること

- ・大人から何度もあいさつしたり声をかけたりすることで「つながり」をつくっている。大人が目線を下げて接することで心を開いていく。
- ・人と人とのつながりをつくるために地域で活動（お花見、朝のラジオ体操、歩け歩け運動）を企画している。
- ・親の心がけでできることがある～朝ご飯だけは全員で、土日は家で過ごす、お手伝いを増やす、褒める言葉を増やす
- ・家族で取り組むことを意識的に行う～親子農業エコ体験、スキップ、読み聞かせ、共通の趣味や話題 等
- ・「ノーメディアデー」はお茶の間にはとてもいい。保幼小中、一貫して行いたい。

☆本会に参加しての感想

- ・子どもを取り巻く社会、環境の変化は激しいが、マイナスに考えずにプラス思考でネットワークづくりに取り組みたい。
- ・遊びの変化が子どもの育ちに影響が大きい。異年齢集団での遊び、自然体験から五感で覚えさせたい。
- ・地区が主体となる協働の町づくりで地域を愛する子どもを育てたい。
- ・都会から引っ越してきたが、家庭と地域の結びつきを強く感じる。
- ・多くの目で子どもたちを見ることで安心感や素直さは育てられるので、「地域」というキーワードは大切。
- ・若い親の中には子育てに悩んでいる人もいる。親にも話せる仲間や教えてくれる隣人をつくるのがいい。
- ・子育てに「父親」の役割・出番を考えたい。そのきっかけを学校や地域が作れるといい。
- ・「わんわんわん運動」は親子で取り組むにはとてもいい。ぜひ共通して推し進めたい。
- ・小さい頃の接し方が大切、家族仲良くが子育ての一番。
- ・日々の忙しさでおろそかになっている子育てについて再認識できた。

◇短い時間でしたが、様々な実践や意見をいただき、とても有意義な時間でした。今後も「わんわん わん運動」を中心に家族の会話やふれあいが広がっていくことを願います。また、それに対して保護者、学校、地域がどのようなアクションができるかを探っていきたいと思います。御協力ありがとうございました。



地域コーディネーター活動報告（上内田小）

昇降口を「緑のエコカーテン」いっぱい

環境づくりに加えて節電対策の一環として、掛川市では緑のエコカーテンを推奨しています（エコネット・チャレンジ）。今年、上内田小の昇降口にお目見えした「緑のエコカーテン」。

地域コーディネーターの青嶋利雄さんを中心に地域の方々のご尽力により作って頂きました。だいぶツルが伸び始め、夏休み後、子どもたちが登校を再開する頃には緑でおおわれる計画でいます。ゴーヤ、ヘチマ、ひょうたん、フウセンカズラ等、市で頂いた種に4年生が理科で栽培している苗も応援してくれています。ぜひ、来校の際には、すがすがしい緑を味わって頂きたいと思います。



ー 園・学校・家庭・地域が思いを一つにして、地域の子どもたちを育てましょー ー

(東中・掛一小・上内田小・西山口小・ひだまり幼保・すこやか幼保・智光幼・第一地区・第二地区・南郷地区・上内田地区・西山口地区)

西山口地区福祉協議会ボランティア活動を紹介します。

報告・文責 西山口地区福祉協議会企画委員長 菅沼孝行
(掛東学園地域コーディネーター)

西山口地区福祉協議会には、ボランティア委員会があり、現在 68 人の委員・事務局員が、それぞれの協力部に所属し活動しています。

特に、幼保園、小、中学校への協力や子ども支援の事業を中心に継続的な活動をしています。

また子ども福祉委員会を地域で組織し、26 年度は 28 名の子ども達と福祉の心・奉仕の心を地域で育てる目的で活動をしています。

それらの一部を紹介します。

※詳細の組織と事業は裏面参照。

〈西山口小図書室協力部〉

写真①

福祉協議会の図書室協力部は、毎月第 2 水曜日の午前を基本に、新刊本のバーコード貼り・古い本の補修作業・ラベル貼り替え・書棚の整理等を中心に図書室の清掃も行っています。学校図書館司書と連携してボランティア委員の皆さんは楽しく活動しています。



〈西山口小花壇協力部〉

写真②

5 月に職員と打合せ会を行い、6 月から 9 月の間児童の環境委員会と植え付け作業を行ったり、特に夏休み期間中は、ボランティア委員が 3 人ずつ位の当番制で、花壇の水掛け、除草作業を行ったりしています。夏の雑草が伸びた頃、全員で除草作業も協力します。

また 25 年度末から東中花壇協力部もでき、体育館西側の花壇が大変きれいに咲き誇り学校や訪問者に喜ばれています。



〈下校時声かけ活動 ボランティア委員全員〉

写真③

4 月の通学区児童会がある日に、ボランティア委員と校庭で対面式を行います。その後、立哨ポイントで声かけ活動をして 1 年間の活動が始まります。

基本的には第二・第四水曜日の下校時間帯に地区内 16 ポイントにユニホームを着用して立ち、声かけ、見守りしています。犯罪防止・抑止力にもなっていると思います。

また昨年暮れから年明け 2 月 3 日まで、国一号の陸橋が改修工事で通行止めになるため宮脇・成滝の一部児童の通学路が別の信号交差点を大きく迂回することになり、緊急対応として地域関係者や P T A と共にボランティア委員会も立哨見守りに参画し、子どもたちの安全な登下校に協力しています。



〈すこやか幼保園協力部〉

写真④

すこやか幼保園では、花壇協力〈女性〉と畑協力〈男性〉、そして餅つき協力〈全員＋事務局員〉をしています。

畑はジャガイモとサツマイモの植え付けや収穫時に、園児の祖父母のみなさんと一緒に協力参加しています。

12 月に行われる園主催の餅つきは、20 日余もつので半日ばかりの大仕事ですが、園児も餅つき体験をしたり、つくたてのお餅を食べたりして喜ばれています。

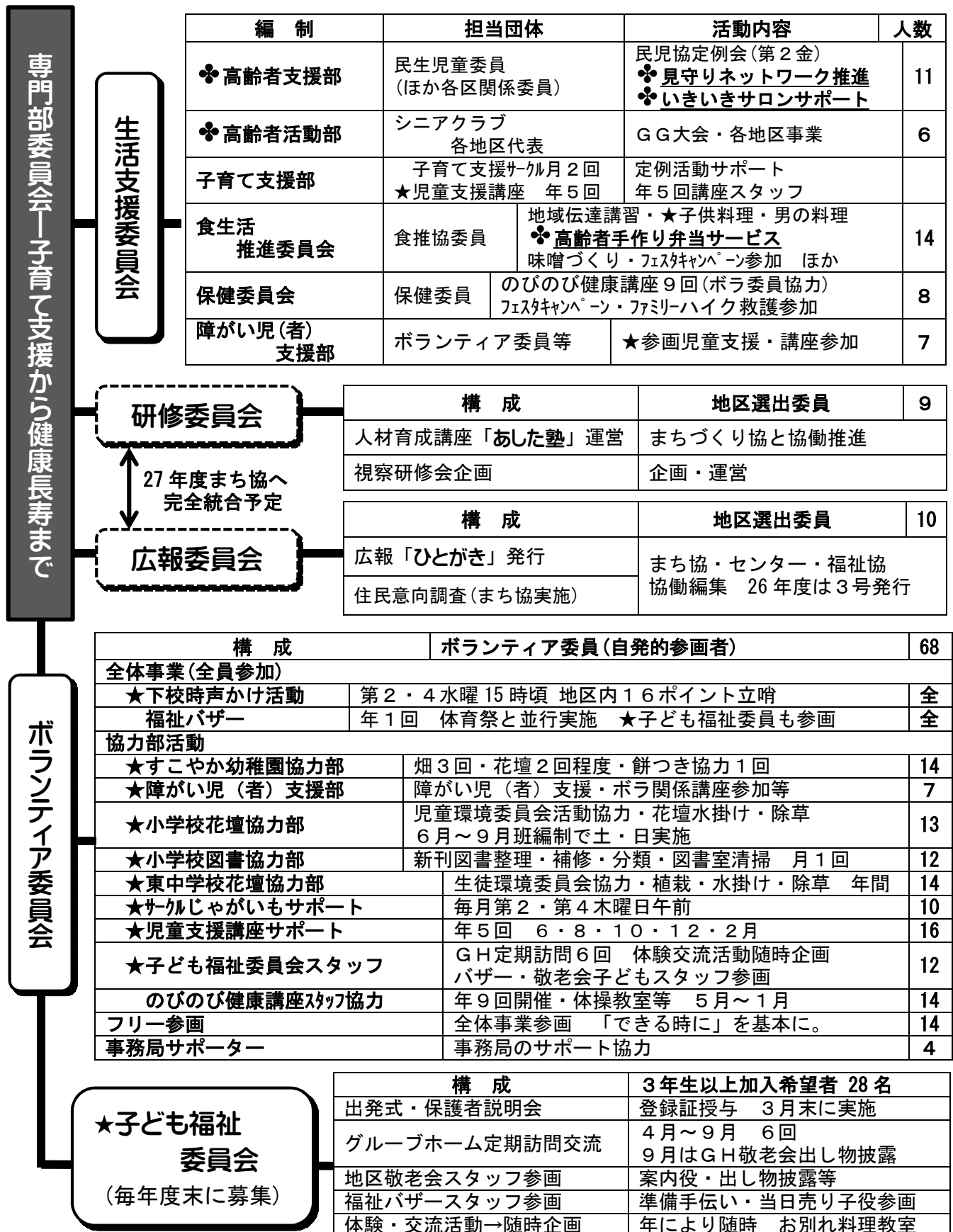
また夏には、子ども福祉委員会が保育園部を 2 日間訪問交流して、園児と遊んだりお世話をしたりして楽しく過ごしています。



西山口地区福祉協議会組織構成と事業

掛東学園関係は、ボランティア委員68名と事務局関係委員
で下記★印の活動に携わっています。

★掛東学園関係活動
(園・学校・子ども関連事業)
❖高齢者対策関係事業



※西山口地区敬老会は本年度から、三団体協働による実行委員会体制で実施しました。

掛東学園だより

平成27年1月号
掛 東 学 園
(掛川市立上内田小学校)

一園・学校・家庭・地域が思いを一つにして、地域子どもたちを育てましょうー
(東中・掛一小・上内田小・西山口小・ひだまり幼保・すこやか幼保・智光幼・掛川工業高・第一地区・第二地区・南郷地区・上内田地区・西山口地区)

掛川市教育委員会が進めている「学園化」(掛東学園もその一つ)が1年半ほど経過し、中学校区ごとに「〇〇学園」が軌道に乗り始めています。先日掛川市のHPに以下のようなサイトができました。御覧になってみてください。



掛川市のHP>市民の皆様>子育て・教育>教育委員会>教育委員会について>かけがわ学園放送 どうぞ

掛東学園の取組をさらに充実させていくためには、園・学校・家庭・地域が「子どもをよりよく育てたい」という思いで一致していることを確かめ合って取り組むことが一番だと考えます。そこで、それぞれの思いをつぶさに見てこられた地域コーディネーター様に御意見をうかがってみました。

質問内容	東中学校 福田 様	掛一小 服部 様 ひだまり	西山口小 菅沼 様	上内田小 青嶋 様
子どもたちとの関わりで印象に残っている活動は？	挨拶運動を兼ねて通学路の立哨をしていますが、年々子どもたちの成長が見えます。前日注意した子が次の日に守ってくれ、笑って声を掛けてしまいます。	運動会組体操のビデオ制作をしました。先生と子どもたちの真剣な取組に感動しました。	子ども福祉委員会の児童が、グループホーム訪問を続けています。入所の皆さん相手に、いきいきと笑顔で活動していることですね。	脱穀、餅つき等で子どもたちが一生懸命に取り組む姿勢に大変感動を受けました。 
地域人材、環境をうまく生かしたという活動は？	「掛川学」の講師を頼んだとき、テーマに知恵を絞ったり、わかりやすいように話し方を考えたりしてくれ、素晴らしい授業になりました。	・「河井弥八記念館」の先生方見学会を開催し、地域活動の現状を紹介できたこと。 ・中学生が南郷文化祭で、積極的に手伝ってくれたこと。	西山口福祉協議会ボランティア委員会の皆さんが、未就学児～東中生まで、子どもたちと関わりの多い活動を軸に活動しています。	コンクリート打ちもやったが、自宅作業をやめて協力してくださった地域の方が大変ありがたかったです。
もっとこんな風になれるといいなと思うことは？	学校への支援を手厚くしたいが、もう一つの目的である地域の発展やボランティアをする市民の社会教育にも寄与する活動になるようにしたい。	子育て真っ最中の保護者の方が考えていること、悩みなどを聞き、参考にしたい。 	「できることを・できる時に・自発性を尊重・きつい拘束をしない」という考え方でボランティア委員会を今後も進めたい。	地域にボランティア組織があると、活動がスムーズにできるかな。

多くの子ども、教員、保護者、地域の方と関わってきたコーディネーター様ならではの御意見だと思います。思いに共感される方、興味をもたれた方は、直接コーディネーター様か園、学校まで御連絡ください。一緒に取組を深めていきましょう。(裏面へ)

掛東学園保幼小中一貫教育研究会全体研修会開催！

園・学校・家庭・地域が「子どもをよりよく育てたい」という思いで一致していることを確かめ合う取組が、11月19日(水)に東中学校で開催されました。

【全学級の授業公開】

【黒田友紀先生の御講演】



参加者の感想です。複数の方の意見をまとめて掲載させていただきました。

協議会の
推進委員の方



東中の向き合いながらの授業は、どのクラスも一体感があり、すばらしいと思いました。自分たちで考え、ディベートし、まとめる…自分の子どもの頃と比べ、すばらしく進化していると思いました。

御講演から、今の教育では、基本的に「学び合い」をすることでお互いに能力を高め合っていくという形が、この地域だけでなく全国的に行われていることがよくわかりました。

東中の生徒の皆さんがよく挨拶をしてくれ、大変好感がもてました。良い大人に育ってくれるのが楽しみです。

どの学年、学級でも小集団で話し合ったり、考えを出し合ったりする時間を大切にされていて、よい環境だと感じました。子ども同士で考えるだけでなく励まし合う声も聞かれ、人間関係の良さがわかりました。

わからないこと、困ったこと、悩んでいることを、子どものうちに相手に話せるようにしておけば、大人になったとき、社会に出て人間関係を築いていける子になっていくんだと御講話から思いました。保育園、幼稚園でも意識していくことができると感じました。

幼保園職員



小学校職員



本校の卒業生が、笑顔で集中して授業に取り組む姿を多く見られて、大変うれしかったです。中1は和気あいあいと、中2、3になるに従って落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組んでいる様子が伝わってきました。

御講演から、「隣の人とちょっと話したい」という気持ちが、小集団活動での学び合いを本当の学びにするのだなと改めて思いました。グループ学習の様子を一目見ただけで、子どもの取り組み方がわかるというのはすごいと思いました。お話と写真でそれがよくわかりました。

御講演から、「学び合い」の目指すべきところ、効果、成功例と失敗例「教え合い」との違いなどが詳しくわかりました。また、発達段階に応じた「学び合い」の理想的な姿も、たくさんヒントがもらえました。

学びに参加していない生徒をどう支援するか、御講話を生かして声を掛けていくよう心がけたいと思います。

中学校職員



子どもたちに対して保育・幼稚園で目指すもの、小学校で目指すもの、中学校で目指すもの、そして地域で目指すものを、つながりのあるものにしていきましょう。

掛東学園だより

平成26年度12月号

掛東学園

文責：掛川市立第一小学校

一園学校・家庭・地域が思いを一つにして、地域の子どもたちを育てましょうー
(東中・掛一小・上内田小・西山口小・ひだまり幼保・すこやか幼保・智光幼・第一地区・第二地区・南郷地区・上内田地区・西山口地区)



掛東学園の活動、軌道にのってきました



早いもので、掛東学園子ども育成支援協議会が本格的にスタートして2年が過ぎようとしています。各校コーディネーターによる活動も軌道にのってきました。

最近の活動を少し振り返ってみます。

「のぼり旗」～「あいさつ運動」

学校・家庭・地域の共通取組事項として、「あいさつ運動」があります。本年度の掛東学園の「のぼり旗」は、ピンク色に加え、青空をイメージする水色の「のぼり旗」が作られ、あいさつ運動の気運もより高まってきました。この旗は、各園、小中学校だけでなく、生涯学習センター等にも掲げられましたので、地域の皆様も目にしていることと思います。掛一小児童も、「あいさつし隊」や「あいさつカード運動」に取り組みました。各校においても、活発なあいさつ運動が展開されました。



保護者・地域の皆様も、子どもたちに積極的に声掛けをしてくださりありがとうございました。

地域の皆様といっしょに防災訓練 ～ 掛東学園の目指す姿に一步！



12月7日は、園児・児童・生徒も参加して、地域の防災訓練が行われました。子どもたちの様子は、いかがだったでしょうか。災害の被害をできるだけ少なくするためには、いろいろな場面を想定した訓練を繰り返し行う必要があります。日頃、学校でも、防災訓練を行っています。子どもたちが学校で過ごす時間は、実際には、一日の中で8時間ほどで、そのほとんどが地域や家庭で過ごす時間となります。このような状況からも地域と一体となった防災訓練は大切であると思います。



掛一小では、「見学するだけでも立派な防災訓練」と呼びかけ、できる限りの参加を促しました。

子どもたちは、地域の皆様と交流する中で、自分も地域の一員であることや地域の方々に見守られていることに気付き、視野を大きく広げられたのではないかと思います。

地域の皆様と一体となった防災訓練。訓練のみに留まらず、掛東学園の目指す姿に一步近づけたと思います。

掛東学園 文化の秋

～第一・二地区ふれあい広場、南郷文化祭～

11月8日・9日の両日、第一地区・第二地区文化祭「ふれあい広場」が盛大に行われました。会場の体育館には、第一・第二地区在住の掛一小児童の作品が掲示され、多くの人が立ち止まって作品を鑑賞されていました。

ステージでは、初日は東中吹奏楽部のミニコンサート、二日目には地域の文化団体による踊りや合唱、そして、昨年度、全国童謡歌唱コンクールで金賞を受賞された加藤さんファミリーは、素晴らしい歌声を披露してくださいました。

同時開催された『子角山の森のコンサート』には、掛一小音楽クラブも出演し、かわいい合奏に、大きな拍手をいただきました。掛川少年少女合唱団やスタディ・カルチャークラブ（ダンス）にも、掛一小の子どもたちがたくさん入って、会場を盛り上げました。

また、11月23日には南郷文化祭が盛大に行われました。地域の方の力作や取組の展示に加えて、今年も掛一小の子どもたちの図工や書写の作品が掲示され、会場を彩っていました。掛川市立東中学校吹奏楽部の皆さんによるミニコンサートにも、多くの方が詰めかけ大きな拍手を送っていました。掛一小の子どもたちもたくさん会場を訪れ、それぞれのブースや催し物を楽しんでいます。



掛川ひかりのオブジェ展参加

『好きです！かけがわのまち実行委員会』が主催する「かけがわひかりのオブジェ展」が、今年も12月7日から新年1月23日の期間で開催されています。

12月7日の開会式では、東中吹奏楽部によるクリスマスバージョンの演奏が式を盛り上げました。

展示には、東中生徒の作品、掛一小児童の作品も出品され、冬の掛川駅通りの街並みに明るい彩りを添えています。



掛東学園だより

平成 26 年 7 月号
掛 東 学 園
(掛川市立東中学校)

平成 25 年 4 月、掛東中学校区の青少年健全育成会が掛東学園子ども育成支援協議会になりました
一園・学校・家庭・地域が思いを一つにして、地域の子どもたちを育てましょう一

「笑顔であいさつ」の掛東地域に

一掛東学園子ども育成支援協議会全体会が開催される一

青少年健全育成会が掛東学園子ども育成支援協議会となり 2 年目を迎えました。本年度は、6 月 14 日（土）に掛川市立東中学校で、掛東学園子ども育成支援協議会全体会を行いました。推進委員、保護者、地域住民の方々総勢 150 人が参加しました。

全体会では、中村隆哉会長、来賓を代表して高木市議会議員と浅井教育長の御挨拶をいただき、その後 4 人の地域コーディネーターが各園・学校を中心に取り組んでいる活動を報告しました。

後半の分散会では、「縦の接続と横の連携で育む」ことを重視し、保幼小中の保護者と教員、区長、民生児童委員、保護司等が一堂に会したメンバー構成で話し合いを行いました。分散会では、掛東学園での取組「笑顔であいさつ」が改めて確認されました。



中村隆哉会長
協働のまちづくりと中学校区を単位とした学園化構想と双方をうまく連動させながら、園・学

校・家庭・地域が思いを一つにして、地域の子どもたちを育てていきたいと思います」と挨拶されました。



浅井教育長

人づくりの土台は、「お茶の間」にあり。家族が集い、語り、学び、伝え、そして育むところ。家族の団らんから生まれる財産をもとに、豊かな広がりのある人づくりにつなげましょうと、お茶の間宣言について話がありました。



地域コーディネーターの 4 人（右から順に、東中担当の福田さん、上内田小担当の青嶋さん、第一小担当の服部さん、西山口小担当の菅沼さん）から発表がありました。

福田さんからは東中「掛川学」における地域人材の講師としての活用、青嶋さんからは上内田小の環境整備、服部さんからはひだまりと掛一小の地域施設研修、菅沼さんからは西山口小のボランティア組織の充実等の話がありました。

P T A代表、地域代表、各園校の先生が 膝を交えてじっくり話し合いました

第一小学校校区は5つ、上内田小学校校区は2つ、西山口小学校校区は3つ、計10の分散会に別れて話し合いを行いました。

- 大人も笑顔であいさつしていますか。大人があいさつの先取りをしようよ。
- あいさつが人と人との関わりの第一歩。ずっと大切に取り組みたい。
- あいさつできればいいんじゃない、「笑顔であいさつ」だからこそ、そこにコミュニケーションが生まれるんだ。
- 今日この会に参加して、会の趣旨やコーディネーターさんがどのようなことをしているのか、初めてわかった。もっと周りの人に知ってもらいたい。
- 地域と学校が一体となった素晴らしい活動をもっと知ってもらえたら、ボランティアの輪が広がるよ。
- 地域コーディネーターの皆さん、ありがとう。

(掛一小学校区5グループ)

- 理事になって初めて掛東学園に参加し、地域と子供たちが密着して色々な活動をしていることを知り、自分ももっと積極的に参加していきたいと思った。
- 「笑顔であいさつ」ののぼりを見ると、あっと思ってあいさつができることもあり、よいと思う。夕方子どもたちにあいさつをすると、だんだんあいさつが返ってくるようになってきた。
- ひだまり幼稚園から帰る途中に、東中生がこんにちは！掛一小の児童がおはよう！とあいさつをしてくれてうれしい。南郷地区の行事にも参加していきたい。
- 掛川に常住して数年、夫婦で散歩をしているが、子どもたちがすれ違う時にあいさつしてくれるのが気持ちよかった。



(上内田小学校区2グループ)

- 小学生は大変よくあいさつしてくれるし、中学生、高校生も昔に比べれば随分あいさつするようになった。むしろあいさつできないのは、大人の方。
- 他県から越してきたが、あいさつを交わしてくれる人が多いし、地域内の結びつきが強いと思う。
- あいさつの根本は「家庭」から。家族そろってあいさつしたり、あいさつのシャワーを浴びさせることが大切。そしてできたらほめる。根気よく。
- 大人から先にあいさつをすると、子どもたちはうれしそうにあいさつを返してくれる。まずは地域の大人や家庭の親からあいさつしたい。



(西山口小学校区3グループ)

- 宮脇地区は、あいさつがよくされている。あいさつは年齢が大きくなるほど恥ずかしさがある。
- 区長と語る会(満水地区)の折、中学3年生の4人が積極的に意見を言うてくれて嬉しい。
- 入学式では、新入学児童と2年生を比べ、1年間の成長を感じた。地域として子どもたちの成長を素直に認めていくことも大事だと思った。
- 高学年が手本となって頑張っていてあいさつをしている。

